

「だれでも、自由に、どこへでも」その 20年の活動記録の再編およびその考察

もっと優しい旅への勉強会

〒157-0073 世田谷区砧一丁目 29-4 オフィスキヌタ 内

助成事業の概要

200 回以上の定例会実施、述べ 2000 ページを超える会報発行を 20 年以上継続的に実施してきたことに加え、本会から旅行や福祉業界に就職した学生や、第一線で活躍する人材を数多く輩出してきたことに対して、近年大きな評価を受けている。特に定例会のテーマや報告を記録している会報は、この分野において他に類を見ない貴重な史料として期待されている。しかし、本会の運営は会員有志によるボランティアが都度行ってきたこともあり、期待にこたえる史料としては、その情報量に即した整理に乏しい。本事業の目的は、これまでに本会が積み上げてきた活動、研究などの記録を再考し、定例会のテーマや対象を整理整頓し、かつその時代背景等も照らし合わせた考察をまとめることにあり、さらに、将来にわたり「だれでも、自由に、どこへでも」のさらなる活性化を担う関係者や旅行者に有用な情報として配布・発信していくための基盤をつくることにある。時期については、24 年 7 月頃から過去記録の収集を開始し、過去会員への取材・ヒアリング等も行いながら、この 20 年を年代別に分けた考察を年度末までに報告書の形でまとめる。

事業の成果

過去の定例会を再考していく過程で、本会がそれぞれの時代において的確な問題提起を行っていたことに対し、その先駆性をあらためて認識した。また、多岐にわたるテーマに加え、スタイルにつ

いても多様であり、講義・ディスカッション・フリートーク、さらには視察旅行の実施など、様々な形態で社会に対し問題を先駆けて提言してきたことも再認識した。

このような本会活動の原点ともいえる事項を踏まえ、過去 20 数年の整理・再考を行った。具体的には、これらの多様性について、そのこと自体をこの 20 数年の大きな特徴として位置づけ、時代背景との照合および変遷という視点を加えた。すなわち、前半である 1990 年代を「だれでも、自由に、どこへでも」の「黎明期～構築期」とし、後半である 2000 年代から現在までを「発展期」として大分類、さらに今後の研究などにおいて焦点を当てやすいよう、4～5 年サイクルによる中分類を行った。中分類の各サイクルにおいては、時代状況と定例会内容との双方を概観、関連する社会動向をピックアップし、そこに定例会の内容を時系列に合わせて解説・考察を入れた。このことにより、時代背景と当時の定例会テーマとの密接性を把握できるような整理ができたうえ、さらには関係者の念願でもあった、この分野におけるひとつの歴史的体系が確立されたといえる。本事業の成果は、1991 年から今年まで、時として大きな壁にぶつかりながらも設立当時からの理念を体現するという意志をもち続け、無償ボランティアにより紡がれた地道な活動の軌跡に対し、ともすれば淡々とした事実の羅列にとどまりかねない記録群を、この分野にかかわっている関係者の期待に応えうる、公益性の高い資料（史料）としてまとめあげたという点で非常に大きな成果があった。一方で課題として、諸事情により過去の

会報の一部が入手できなかつたりするなど、基礎資料となる情報収集において充分とは言えないところがあった。この点については、将来の課題として、少しずつ穴埋めをしていきたい。

■ 成果の広報、公表

本会の Web サイト (www.yasashiitabi.net) に「過去の定例会一覧」として第1回定例会が行われた1991年4月から、現在に至るまで実施された定例会の年表を作成し、テーマ、講師等を掲載した(一部は諸事情により省略または「作中中」としている)。そして、定例会ごとに1ページずつ割り当て、定例会の要約・様子を紹介している。

また、「もっと優しい旅への勉強会・定例会の歴史と考察」と題した冊子(PDF版)を作成し、関係者に配布した。現時点でPDF版のみだが、会報等でも告知し、あわせて発展形を検討していくべく、協力者を募っていきたい。この分野の歴史の論考において、基本的体系が確立できたことから、この冊子を、その内容についてさらに考察をかさね、質量ともに発展させていくためのベースとしていきたい。

■ 今後の展開

本会には、旅行をする際に何らかの不自由がある人をはじめ、旅行業界や福祉業界関係者、主婦、学生など、さまざまな分野の人たちからの問い合わせや相談が多いが、その中で常に感じるのは、この分野に従事したいという学生や研究者にとって、そのための基礎となるソースや人的ネットワークに未だ乏しいということである。会の内外を問わず、将来の担い手となる人たちに対し、これまでの歴史・背景、克服してきた課題を示す羅針盤のような役割を果たしていくことは、20数

年の歴史を重ねてきた本会の次なる活動の基盤づくりにつながるだけでなく、新たなネットワークの構築、新たなテーマの探求などにおいても相乗的な効果が期待できる。本事業をきっかけに、事例と考察を積み上げる仕組みは確立されたと言え、その継続による効果も十分に期待される。これは一部の関係者や旅行者のみならず、業界や地域社会にとっても有用なことであると考ええる。

「だれもが、自由に、どこへでも」という本会の設立以来のスローガンは、今なお色あせることのないものであり、むしろ「ユニバーサル・ツーリズム」などに代表される昨今の概念の原点とも考えられる。すべての人が旅の楽しさを享受できる社会の実現は、成熟した社会のありようにもかかわるものであり、このことを唱え続けることが本会の役割と考える。